

ちなみに、



えりきみの「えり」こと、えりなです。今回の活動日記は特別版！
サポーターにりみちゃん、ゆうこちゃん、ななみちゃんを加え、4人でゴミ
について調べてきました。ページも増量してお届けします！



八月十九日、知名字の子ども会の行事で、海水浴がありました。小学生のりみちゃんと一緒に泳いでいた私は、りみちゃんから嬉しい言葉をもらいました。

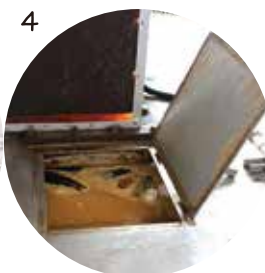
「早く来月にならないかなあ。だって広報ちなが読めるんだもん！えりきみの活動日記が楽しみなの！」

おー。毎回締切に苦しみながら書いているこの連載を楽しみにしてくれている人がいる！嬉しくなりました。次の取材に行こうとりみちゃんに声をかけました。テーマは、泳いでいた屋子母海岸にもたくさん落ちていたゴミ。ゴミが多いよね、ゴミって最後はどうなるか知ってる？見に行ってみようか！

そんな経緯で、今回は運搬されてきたゴミの焼却などを行う「クリーンセンター」と、事業所の生ゴミを土壌活性化液(液肥料)に加工している「おきのえらび食品リサイクルセンター」にお邪魔してきました。

どちらの施設も、りみちゃんも私も何ったのは初めて。普段何気なく捨てているゴミでも、新しいものに生まれ変わるゴミと、生まれ変われずに隠されていくゴミがある。それを目の当たりにした私たちはえらびのゴミを減らすために、まずは調べた情報を知ってもらおうと、次のページにまとめてみました。

ちなみに、私が一番印象に残ったのは上の写真の様子。生まれ変われなかった「燃えないゴミ」や、「燃えるゴミ」を燃やした後の灰は、こうして最終処分場に捨てられ、土をかぶせ、えらびの地に段々と積み重なっていくのです。



1_ペットボトルかどうかは表示をよく見てね。2&3_最終処分場でまだ使えるボールを見つけたななみちゃんと探すゆうこちゃん。
4_生ゴミを肥料にする機械。一本丸々のなすが…。5_真剣に説明を聞きりみちゃん。